

春シラスの漁況経過と秋シラスの見通し

(1) 春シラス(2~7月)の漁況経過

今年の春シラス漁は、3月に一時的に漁模様が良くなりましたが、長続きせず、再び漁模様が良くなったのは5月中旬から7月中旬まで継続しました。春シラスの漁獲量は7/19時点の速報値で1,615トンとなり、前年(2,593トン)、過去5年平均(1,849トン)を下回っていますが、過去36年間の漁獲量上位3割に当たる漁獲水準(1,550トン以上)に到達し、5月24日の水産の窓での予測通り、「好漁水準」となっています(図1)。

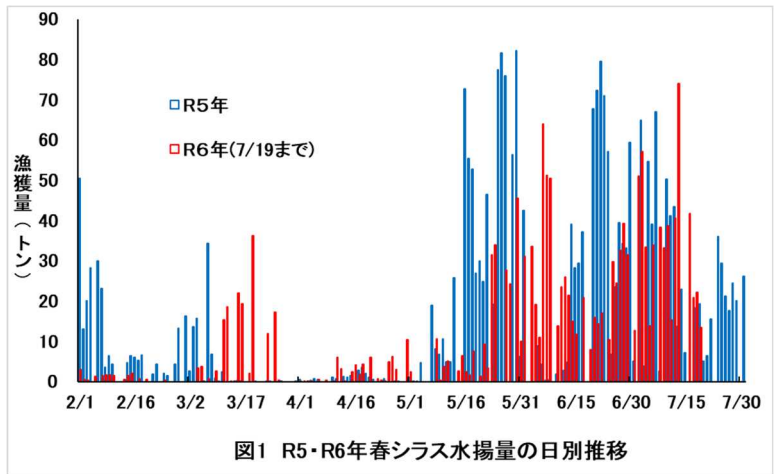


図1 R5・R6年春シラス水揚量の日別推移

(2) 秋シラス(8~12月)の見通し

黒潮の北偏傾向は弱まり、黒潮本流北端は宮城県沖まで南下しましたが、黒潮の北偏傾向は継続する見込みで、シラス漁場となる141°30'以西の沿岸域の水温は「平年並~高め」となり、シラスにとって好適環境で推移する見込みです(図2)。

今年のいばらき丸でのカタクチイワシ卵仔魚採取数は、5月に皆無になったものの、6月、7月と増加に転じており、新たなシラス資源の供給が確認されています(図3)。

また、平成30年以降、本県沿岸の秋期の海況は暖かい傾向が継続し、毎年、同様の漁獲傾向を示している(図4)。今年も漁期中、海況に大きな変化が起こらない見込みであることから、過去6カ年と同様の漁獲傾向で推移すると考えられます。

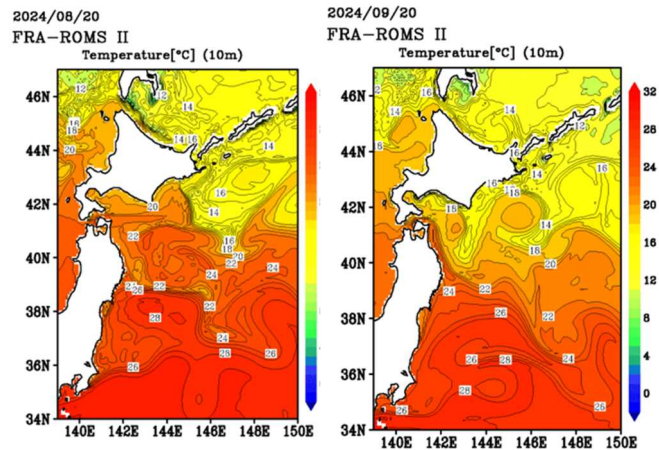


図2 8/20、9/20の10m深水温予測図

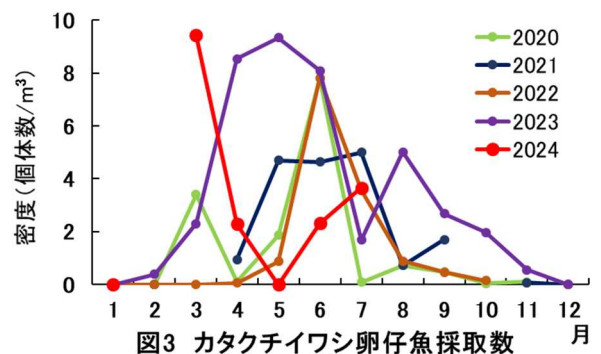


図3 カタクチイワシ卵仔魚採取数

(3) まとめ

以上から、今年の秋シラス(8~12月)の漁獲量は「中漁水準」(1,450~2,100トン)と予測します。

(回遊性資源部 茅根 正洋)

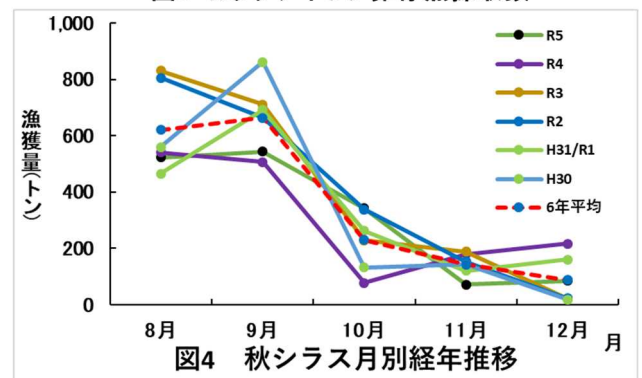


図4 秋シラス月別経年推移